

ユニセフ T・NET 通信

2015 WINTER

No.59

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

特集

ユニセフ

基礎講座

第49回

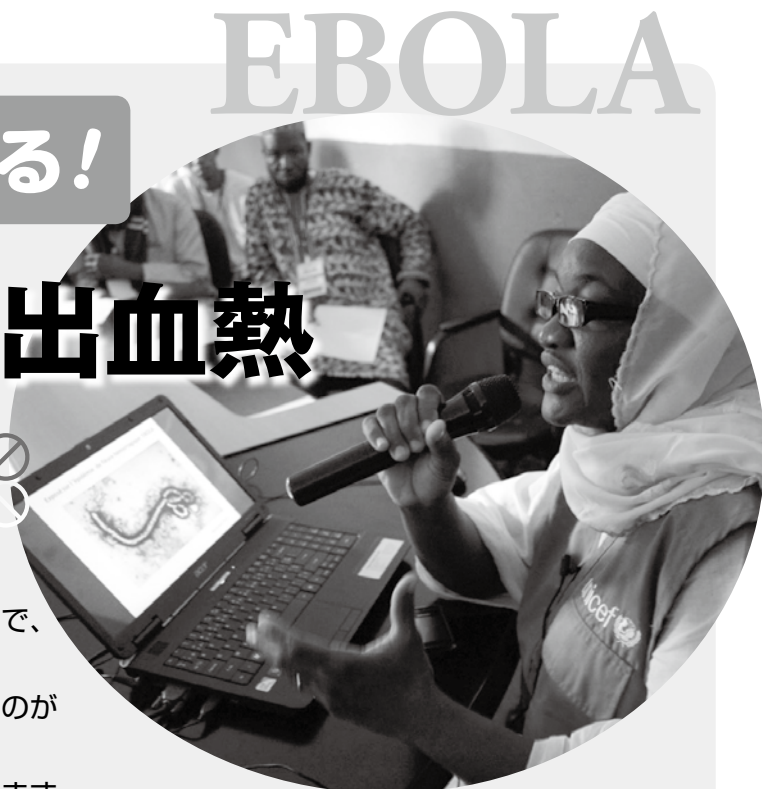
よく分かる!

エボラ出血熱



エボラ出血熱、デング熱、マラリア……グローバル化や気候変動によって、私たち日本人にとっても他人事ではなくなってきた感染症。今、世界中で、様々な感染症が人々の生活を脅かしています。その中でも今、西アフリカで猛威をふるっているのがエボラ出血熱です。

今回の基礎講座は、エボラ出血熱について特集します。



© UNICEF/NYHQ2014-1502/La Rose

● 感染症ってなに？

感染症は、ウイルスや微生物、寄生虫などが様々な経路を通してヒトの体に入り込み、体内で増殖することによって起こります。ワクチンや薬で予防・治療できるものも、まだワクチンや治療薬が開発されていないものもあります。



● エボラ出血熱ってどんな病気？

エボラウイルス性の感染症で、致死率は適切な処置がなされなければ90%程度にまで達することもあります。潜伏期間は2日～最長21日間。発熱、頭痛、筋肉痛などに始まり、症状が進むと、おう吐、下痢、発疹の症状がみられます。吐血、歯肉からの出血、消化管からの出血など、ひどい出血症状ができれば、死に至る可能性も高くなります。エボラから回

復した人は、一定の免疫を得ると考えられていますが、免疫の持続期間は分かっていません。未だに特效薬が開発されていないため、感染者への対応とともに、感染経路の特定や、感染していない人たちに正しい情報を広めることがとても重要です。

● 流行している地域

エボラ出血熱は、今までもアフリカの一部地域で発生したことがありました。しかし、今回のように、大流行はしていませんでした。2014年3月にギニアで発生したエボラ出血熱は周辺国に広がり、8月にはWHO（世界保健機構）が非常事態宣言を出す事態となりました。2015年1月現在、20,000人以上の感染が確認され、多くの子どもたちが危険な状況にさらされています。次のページでは、エボラ出血熱の影響やユニセフの活動についてお伝えします。

リベリア、シエラレオネ、ギニアではエボラ出血熱の影響で 14,000 人以上の子どもたちが一方または両方の親を失い孤児となった事が確認されました (2015 年 1 月 7 日時点)。また、250 万人以上の子どもたちが感染や流行の危険がある地域での生活を強いられています。



これまでの感染者数 (2014 年 1 月 7 日時点 /WHO)

国	感染者数	死亡者数
ギニア	2,775	1,781
リベリア	8,157	3,496
シエラレオネ	9,780	2,943
周辺国・他	35	15
合計	20,747	8,235



ユニセフはどんな
対応をしているの？

たとえば、こんなことをしています。

物資の提供

エボラ出血熱の感染から保健員を守るための防護服、手袋、ゴーグルなどの身につけるもの、また、予防に必要な不可欠な消毒剤、塩素、バケツや石けんが入った衛生セット、治療に活用される医療品、各利用テント、ベッドやビニールシートなどを提供しています。

ボランティアへの研修

今後半年間で、地域で活動するボランティア 6 万人に研修を実施する予定です。現地では、研修を受けた若者やボランティアが、戸別訪問を行って、家族をエボラから守る方法や感染拡大を防ぐ方法を広めるなど、重要な役割を担っています。

医療従事者や地域の権力者への研修

現地に専門のスタッフを配置して、医療従事者の研修や育成を実施しています。また宗教指導者に理解を広めることで、地域住民と連携し、すべての村落にメッセージが届けられるよう、啓発活動を実施しています。

子どもの保護

エボラにより片親もしくは両親を失い孤児となった子どものための一時ケアセンターの設置や、携帯電話を駆使した家族の再会のためのシステムの構築をしています。

Sierra Leone



©UNICEF Sierra Leone/2014/Dunlop

エボラから回復した兄ジェシフさん（26）と妹のピリキスさん（23）。父親や4人の兄弟、7人の姉妹など、親類17人をエボラで亡くしました。回復から2カ月後、ジェシフさんはエボラで孤児となった子どもたちのための一時ケアセンターで働きはじめ、元々看護師だったピリキスさんも復職し、エボラ患者を支えています。（シエラレオネ）

Liberia

エボラ孤児のための一時ケアセンターを去る子どもたちにハグをする職員のヘレン・モリスさん（中央）。モリスさん自身もエボラから回復した過去があります。モリスさんに抱きつくマーシーちゃん（9）は、父親を早くに亡くし、母親もエボラで亡くしました。幸い、マーシーちゃんと17歳の兄の2人は、知人が里親として育ててくれることになりましたが、西アフリカではエボラを恐れるあまり、親を失った子どもたちが親戚から引き取りを拒否されたり、友達からも怖がられるケースが多くあります。（リベリア）



© UNICEF/NYHQ2014-3126/Nesbitt



UNICEF

ラジオ学習

学校が休校となっていて授業が受けられない子どもたちのために、教育省やパートナー団体との協力のもと、ラジオ放送を通じて自習プログラムを配信しています。

流行国周辺の国への支援

啓発キャンペーンなどを通じて、エボラ流行のリスクにさらされている周辺国が十分に準備を整えられるように支援。感染拡大に先立ち、感染者の早期発見、管理などに取り組んでいます。また、「○○を食べると治る」「塩水で予防できる」等、間違った情報や予防法が広まってしまわないよう、多くの人々が利用するソーシャルメディアも活用し、人々からの質問に答えたりしています。

学校再開に向けた準備

学校を安全に再開するために、何千人もの教員を対象に、子どもたちに対する心のケアの方法、校内における感染予防や安全に学べる環境づくりの方法、コミュニティを基盤にした対応の強化方法などの研修を実施しています。

その他

シエラレオネでは、通話料無料の国家緊急コールセンターを拡大し、24時間/無休で、一般の人や医療関係者からの相談を受け付けています。また、エボラ出血熱に関する迷信や噂などの情報が寄せられる「Rumor Bank（うわさ銀行）」を支援し、それらを分析してコールセンターと連動させ、正しい情報や対応をメディアなどを通じて発信しています。

※お願い：エボラ出血熱への緊急募金を実施しております。詳しくは P8 をご覧ください。